

FME活用の実際 3D都市モデル整備の経験から



お話しする内容

- 自己紹介
- 当社(私)のFME活用について
- FMEを導入して助かったこと
- FMEの利用で苦労したこと
- 今後どのような使い方をしたいか



自己紹介



大木 隼人 株式会社パスコ 事業統括本部 G空間DX推進部 DX推進室

<経歴>

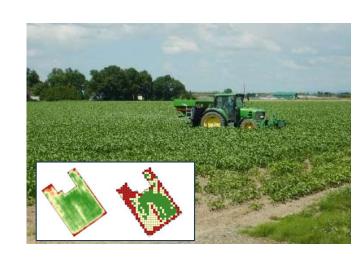
2014年 農学部を卒業

2015年 パスコ入社

主に農業関連の業務に従事

2020年 社内PLATEAUチームの一員となり、FMEを用いた 3D都市モデルの整備・変換ツールの作成やデータ 整備に従事

2024年 DX関連事業の情報収集や、行政向けの先駆的案件に 関わる社内の案件形成支援・業務遂行支援を担当



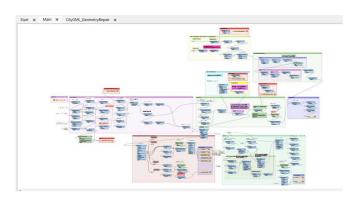




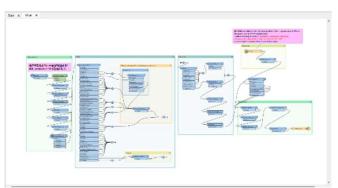


①PLATEAU関連での活用

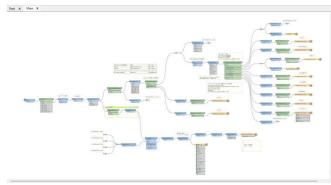
- ✓3D都市モデルの整備
- ✓品質検査
- ✓CityGML→その他フォーマット変換
- ✓ユースケース用データの作成



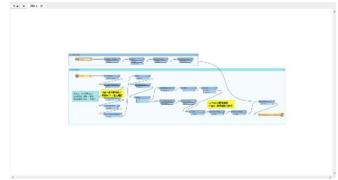
FGDB/OBJ→CityGML



CityGML→ FGDB



品質検査 (PSS様提供ツール)



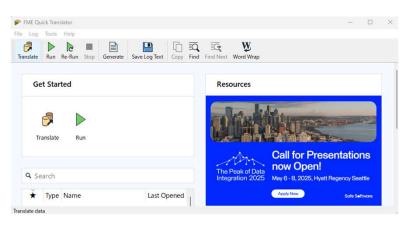
FGDB→CZML



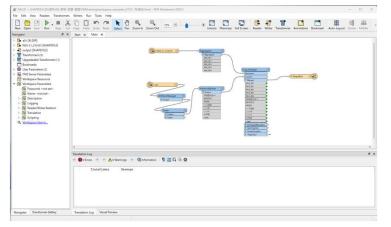
②簡単なデータ加工

- ✓フォーマット変換
- ✓シェープファイルやFGDBの属性編集
- ✓テーブル結合

FMEでいろいろとできるのだろうなと思いながらも使い慣れたソフトウェアを利用することが多いのですが、これらはFMEでとても手軽に処理ができるため頻繁に活用しています。



FME Quick Translator



FME Workbench



②簡単なデータ加工

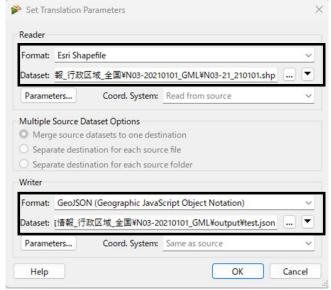
✓フォーマット変換

単純なフォーマット変換には "FME Quick Translator"を使用

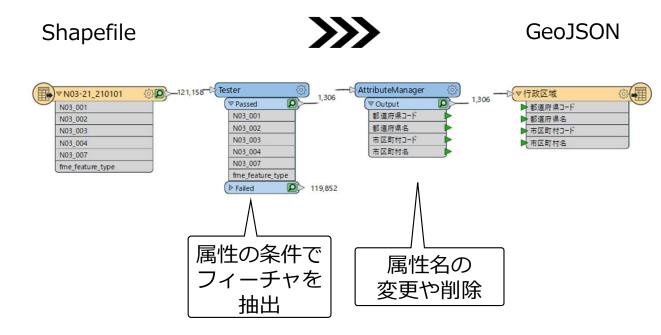
Shapefile



GeoJSON



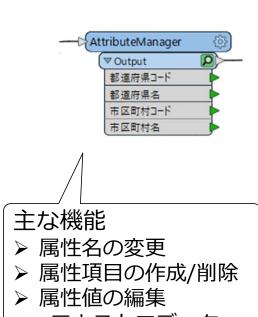
データの加工とフォーマット変換を同時に行う際は "FME Workbench"を使用



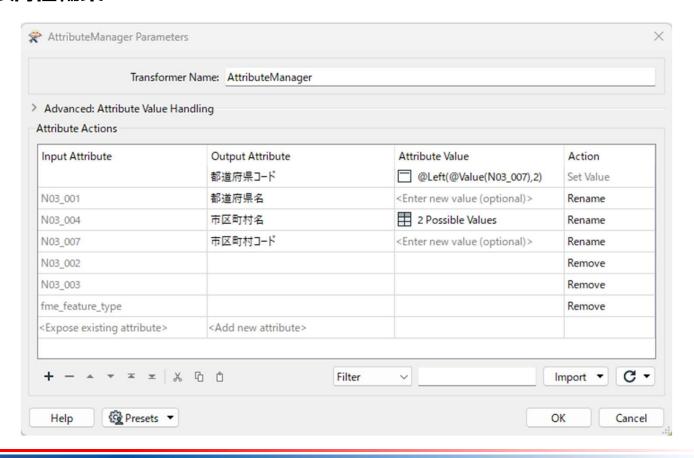


②簡単なデータ加工

✓シェープファイルやFGDBの属性編集



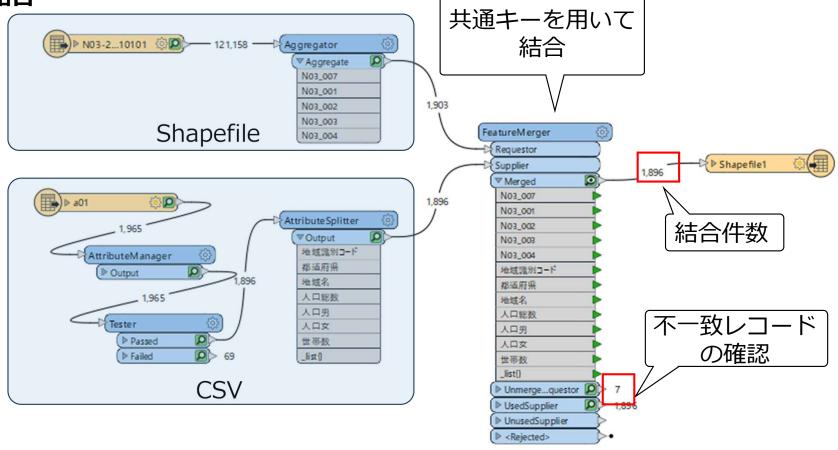
- テキストエディタ
- 数式エディタ
- 条件による値設定





②簡単なデータ加工

✓テーブル結合



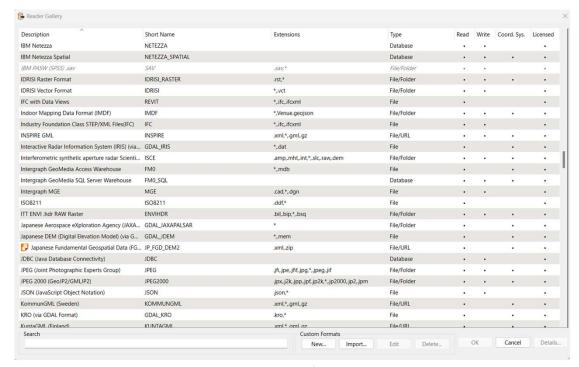


- ●多種多様なフォーマットに対応していること
- ●ワークフローにより処理やデータの流れが可視化されること
- ●中間データを容易に確認できること
- ●CityGML Writerのスキーマ読み込み機能



● <u>多種多様なフォーマットに対応していること</u>

✓ 処理ツールとして対応できる領域が従来に比べて格段に広がった。



Reader Galleryで提示されるデータフォーマット(一部)

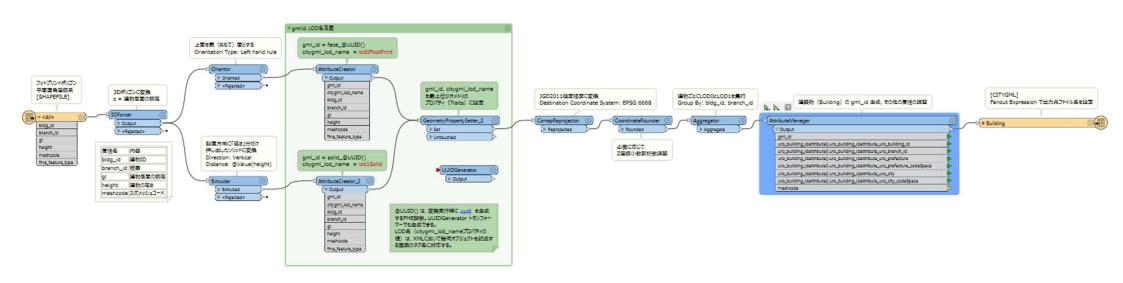
PLATEAU関連で扱う データフォーマット例

- > shapefile
- > FGDB
- CityGML
- > OBJ
- > FBX
- > 3Dtiles
- ➤ GeoJSON
- MVT
- > IFC
- > CZML
- > KML/KMZ



● ワークフローにより処理やデータの流れが可視化されること

✓ 手探り状態であった3D都市モデルの整備方法を検討する上で、仕様や整備手順を整理・理解・共有するための強力なツールとなった。



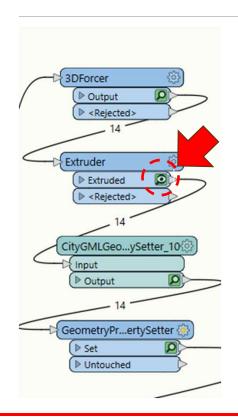
LOD1建築物の変換ワークスペース例

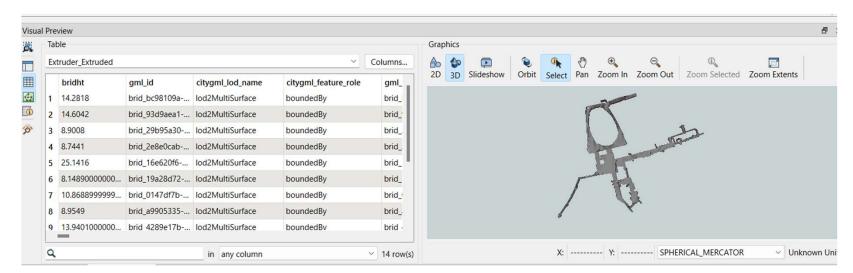
(PSS様公開: https://pacificspatial.com/fme/265/)



● 中間データを容易に確認できること

✓ Transformerごとの処理結果を確認できるため、どの処理でデータに異常が発生したか、想定 外の動きをしているか等の把握が容易になり、ツールの試作段階や品質検査において重宝した。





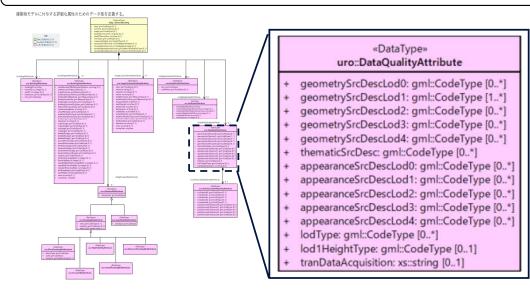
[Extruder]で作成される中間データのプレビュー画面



● <u>CityGML Writerのスキーマ読み込み機能</u>

✓ 3D都市モデル標準製品仕様書に基づいたデータ構造の属性を簡単に作成できるようになり、変換 ツールの属性パートの作成・更新に要する時間が大幅に削減された。

3D都市モデルに付与される属性は、名称・出現順序・データ型・構造などのルールがXMLSchemaにより厳密に定められており、当初はそのルール通りに属性をセットするプログラムを書いていた。



建築物の応用スキーマクラス図の一部 3D都市モデル標準製品仕様書 第4.0版より引用

</>

プログラムを書く際の注意事項

- ✓ 属性名の綴りは正しいか
- ✓ 属性の出現順序は正しいか
- ✓ 属性のデータ型は正しいか
- ✓ 正しい階層構造となっているか
- ✓ 全ての属性を網羅しているか

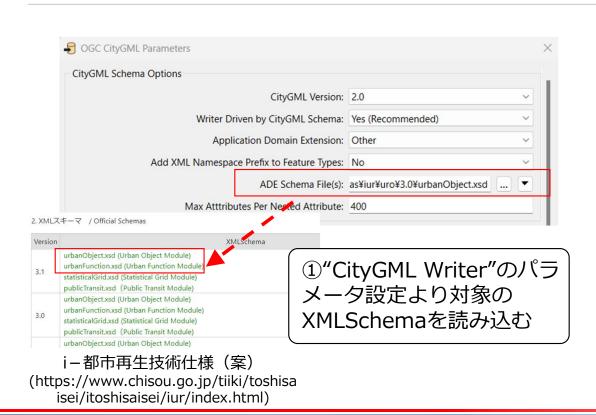


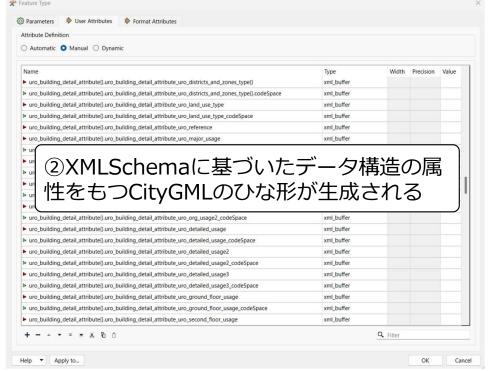
製品仕様書のバージョンアップに プログラムの更新対応が追い付かない。



● CityGML Writerのスキーマ読み込み機能

✓ 3D都市モデル標準製品仕様書に基づいたデータ構造の属性を簡単に作成できるようになり、変換 ツールの属性パートの作成・更新に要する時間が大幅に削減された。







FMEの利用で苦労したこと

- ●指南書となる資料が少なく利用のハードルが高い
- ●社内に利用者が少なくノウハウが無い
- ●社内展開・普及が意外に難しい
- ●大容量のtmpデータが蓄積し容量不足で処理がストップすることが多発した



FMEの利用で苦労したこと

● 指南書となる資料が少なく利用のハードルが高い

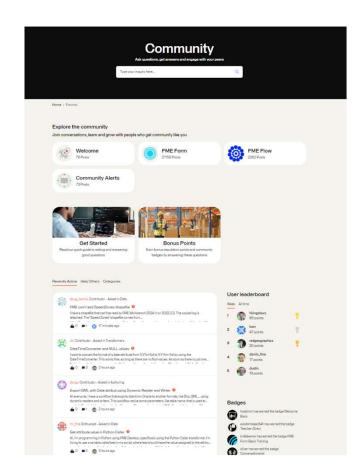
- ✓ FMEコミュニティ等の活用
 - 詳細な情報を入手するには英語が必須
 - スレッドを立ち上げて質問するのはハードルが高い

● 社内に利用者が少なくノウハウが無い

- ✓ FMEコンサルティングサービス等の活用
- ✓ PSS様のFME研修会の開催を期待しております

● 社内展開・普及が意外に難しい

- ✓ 馴染みのないソフトウェアのため身構える?
- ✓ 日本語チュートリアル動画があると展開がしやすい



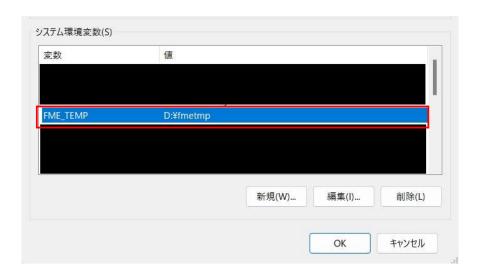
FME Community (https://community.safe.com/community)



FMEの利用で苦労したこと

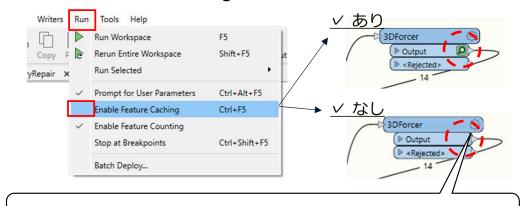
- 大容量のtmpデータが蓄積し容量不足で処理がストップすることが多発した
 - ✓ tmpフォルダの出力先変更、中間データを作成しない設定の適用で回避可能

対策① システム環境変数FME_TEMPの変数値を変更



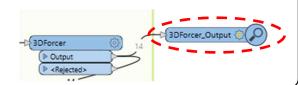
対策② 中間データを作成しない設定を適用する

Enabale Feature Caching の v を外す



中間データを個別に作成する設定が可能

Outputを右クリック > Connect Inspector





今後どのような使い方をしたいか

- ●PLATEAU案件における社内でのFME利用普及
 - →ただ動かせるだけでなく、各自がワークスペースの処理内容を理解し、 必要に応じて修正やアレンジができるようになる
- ●普段使いの頻度を増やし社内でのノウハウを蓄積する
- ●PLATEAUに限らない分野でDX推進のためのデータ整備等への利活用





ご清聴ありがとうございました

株式会社パスコ